一般質問

一般質問の全文は、「会議録検索システム」で読むことができます。インターネットで「小川町議会　会議録」と検索してください。

近隣町村と連携図って、ジビエと猟友会の拠点づくりを。

柴崎（しばさき）　勝（まさる）が問う
鳥獣被害の現状と防止対策は

Q 本年は全国的に熊の出没が相次いだ。当町でも被害者が出たが、対策は。

A **環境農林課長**　緊急性もあり、ラミネートプレート看板を設置しました。被害が甚大になる恐れがあるため、防災無線と防災メールを活用した早期の情報伝達と、ホームページや回覧等で、さらなる周知を図っています。

Q イノシシや鹿による農業被害状況は。

A **環境農林課長**　平成26年度が64アールで171万1000円、27年度が12アールで27万9000円です。被害額としてはあらわれませんが、あぜや水路の掘り起こしなども多く見受けられます。捕獲頭数で見ると、イノシシは27年度が49頭、鹿は30頭、今年度は9月末現在で、それぞれ43頭と29頭で急速に増えています。

Q 狩猟者同士の情報交換・後継者育成をはじめ、ジビエまでの加工を考えた拠点づくりを。

A **環境農林課長**　有害鳥獣の増加に伴い処分や有効利用は、これからの課題と認識しています。今後は小川猟友会の協力を得ながら、新たな技術や状況の確認を行なうとともに、近隣町村と連携等を図っていきたいです。

その他の質問

・旧上野台中学校の活用は

夜行性のイノシシが昼間にも出没するようになった。（市野川付近）

「年数だけが過ぎていく」町民の声があふれています。

山口勝士（やまぐちかつし）が問う
町活性化に小川和紙の活用は

Q 今年度、予算化された新たな和紙製品・商品開発の進捗は。

A **にぎわい創出課長**　3紙（細川紙・石州半紙・本美濃紙）で取り組む「ユネスコ和紙ブランド推進連携事業」の一環で、販路拡大・開発事業として、新たな和紙製品の開発を検討しています。和紙を既存の紙製品にコーティングする手法や、特性を生かした立体的な折り紙など、研究中です。

Q 来る東京オリンピック・パラリンピックで、和紙を使用してもらうための働きかけ等は。

A **にぎわい創出課長**　日本体育協会や東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会などに働きかけを行なう中で、製品の供給体制などの課題を認識しています。今後も3紙での連携を強調し、取り組んでいきます。

Q 埼玉県が進める川越から秩父を発着とする広域観光周遊ルート「SAITAMAプラチナルート」に対する取り組みは。

A **にぎわい創出課長**　現在、埼玉県で計画中のプラチナルート構想に関与し、和紙を軸に体験型の観光をアピールしています。しかし、多言語標記の案内看板対策など、訪日外国人に備えた取り組みには、まだまだ課題があります。

伝統工芸会館の来場者は、ユネスコ無形文化遺産登録後は増加しているが…。

椿と木綿の繊維ですいた布での洋服を夢見ています。

金子美登（かねこよしのり）が問う
在来大豆と和綿でまちおこしを

Q 「農の営み」を「教育」の中に取り戻す必要はないのか。

A **学校教育課長**　埼玉県が設定する「みどりの学校ファーム」に取り組み、学校単位で農園を設置しています。また、生活科・家庭科の教科や特別活動・総合的な学習の時間などに位置づけて、農業体験活動に取り組んでいます。今後も、農業従事者や地域の方々の協力・連携を得て、農の営みを学ぶ体験活動の充実に努めます。

Q 昨今、食卓の大半を占める輸入品・加工品・調理済み食品。また、孤食や外食の日常化は、日に何十もの食品添加物を摂取することになる。特に子供を取り巻く「食」の安全には心配を覚えるが。

A **学校教育課長**　学校給食では、汁物のだしは天然だしを使用しています。大量調理のため、加工食品の使用が多くなりますが、原料配合表や産地証明書を確認し、食品添加物を使用していない安全なものを選んでいます。

Q 「在来大豆」と「和綿」で、まちおこしを兼ねた学校農園を持つ考えは。

A **学校教育課長**　各学校に、在来大豆と和綿を用いた取り組みについて情報提供を行ない、教育活動のバランスをふまえた食農教育の実践が各校の判断で進められるよう促します。

子供たちと栽培し収穫した茶綿を、綿繰機で綿毛と種に分ける作業の様子。

バランスのよい年齢構成を望みます。

（N・Sさん・40歳）

住民のために勉強していってください。

（K・Tさん・61歳）

子供たちに「議員になりた～い」って言わせてちょ。

（S・Cさん・43歳）

地元企業の立場に立って、行動を取っていただきたいです。

（M・Kさん・38歳）

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「議会のイメージ・期待することは」